

最後に市川市の取り組み発表をさせていただきます。

先進的な事例発表を聞かせていただくことで、今回発表した会員 5 市がお互いにいろいろなことで学びあって、そして次のまちづくりにおいてもお互いに刺激しあって良いものができてるのだろうと思います。

また、本日は会員 5 市以外の 21 市の担当者の方々にも参加していただいております。ぜひ WHO 健康都市の連合にご加盟いただければと考えております。

市川市の市外からいらした方も多いと思いますので、市川のことを簡単に説明したいと思います。市川市は首都東京に隣接し、人口は 46 万人です。56 平方キロメートルという大変狭い面積で人口密度は全国の市の中で 30 番目くらいとなっており、人口密度の高いまちです。鉄道路線として 7 路線 16 駅がありまして、1 日の平均の乗降客が 54 万人という状況にあります。

北部では梨の栽培、そして中部の人口密度の高い住宅街、そして、市川という名称からもわかるように川に囲まれた地形であります。それと同時に南部には工業地帯もあり、文化的な面では四季それぞれにいろいろな事業が行われております。

この弘法寺のしだれ桜は 400 年の歴史を持っておりまして、中山の薪能もたいへんな魅力を持っております。今年は 8 月 20 日に行われる予定です。

そして、市川では昔の田んぼが少なくなってきましたが、「米っ人（コメット）クラブ」の田植え等いろいろな事業が行われております。

これは 7 月 16 日に行われる江戸川の「水フェスティンいちかわ」の様子です。その他にもそれぞれの地区でそれぞれのお祭りが行われております。また、秋には市民祭りが防災公園で行われる予定であります。

これは元旦マラソンの様子です。また、こちらの写真のように市川からは富士山も見ることができます。

私たちのまちは、総合計画の中で「人間尊重」「自然との共生」「協働による創造」の 3 つを基本理念として、5 つの具体的な問題を取り上げております。これらのキーワードとなるのは「地域」であります。私たちの市川は東京に近いということもありますので、どうしても衛星都市、寝るだけ、あるいは顔が東京に向いてしまいがちです。そういう流れの中でもう一度「地域」というものを取り戻していこうということで、「地域」からの発信という形でいくつかの事業を行っております。そういう中で環境を守ること、お年寄りの介護の問題、犯罪を防ぐということ、子どもを育てることも、この「地域」というものが大切な役割を持ちます。いろいろなコミュニティーを大切にしながら、コミュニティーの中から情報発信し、いろいろな事業を行っております。

皆さんのお手元に、この「市川市健康都市プログラム」が入っていると思います。中を広げていただくと、このプログラムは 62 課で 260 の事業が行われていることがお分かりいただけます。お配りした冊子は概要版ですが、本当の冊子は 170 ページ位あって、260 事業の細かい事業がすべて書かれております。今日お話しするいろいろな健康プログラムの内容がすべて書かれております。

健康都市プログラムでは、こちらに示したような「体と心」「まち」「社会」「文化」の 4 つのテーマで事業を分類しております。これらの事業のうち「健康都市いちかわ」をより推進していくために 10 の目標を掲げ 118 事業を推進プランとしております。それぞれの

事業には、たとえば「親子料理教室」とか、あるいは「市民マナー条例」などがありますが、この「市民マナー条例」の中で、犬のふんは持ち帰ろう、路上喫煙をやめよう、ポイ捨てはやめようといった運動が行われております。これも大きな成果が出てきております。ここにあるように赤い制服を着た取締員が町中を回っております。

また、「まちかどミュージアム構想」などがあります。「まちかどミュージアム構想」とは、文化都市といわれる市川ならではの事業です。市川市には文化部がありますが、文化部という部がある市もなかなか少ないのではないかと思います。それだけ文化事業に取り組んでおまして、「木内ギャラリー」、「芳澤ガーデンギャラリー」、「郭沫若記念館」、そして今年の 11 月には「東山魁夷展示館」が完成します。また、それぞれを結ぶ散歩道を整備しているところです。市川は歴史と文化のまちといわれていますので、それに恥ずかしくないまちづくりを進めていこうということでもあります。

それから、歩ける道づくり、行徳ふれあい周回路の整備など、それぞれの地区でも特色のあるいろいろな事業を行っております。

水と緑の環境づくりでは、旧江戸川のスーパー堤防事業がありますし、また、相続によってどんどん緑が少なくなる緑を守るため、去年には 2.7 ヘクタールの緑地を市が取得しました。

今年は約 4 ヘクタールの工場跡地に防災公園を作るという事業も進めております。また、休耕田となったところに、小川再生事業といわれる事業を行っております。ごみの回収も 12 分別化して、環境問題に対しての成果も出しております。

また、今年できた「あま水条例」という条例があります。市川は上流部から雨水が流れてくる最終地点となっております。上流で降った雨が全部市川に流れてきておまして、内水問題で大きな問題を持っているのも事実であります。そういうところで、水の浸透がしやすい場所には浸透枘をつけることにより、湧水をもう一度再現しよう、そして内水対策として役立てよう、またこのように雨水を蓄えることによって湧水時に役立てようといった取り組みになっております。

また、防犯パトロールといって、各自治会におけるパトロールであるとか、このような青色サイレンを装備したパトカーを作ることとか、警察官 OB の人たちによる安全パトロール隊をつくって防犯対策をしております。防犯対策課という課をつくって取り組んでいるところですが、おかげさまで犯罪発生率がぐんぐん下がっております。今年の半年だけみても去年、去年も下がったのですが、去年に比べて発生率がさらに減少しております。また「防犯カメラ条例」を作って防犯カメラの設置もいろいろなところにしております。

地域を中心に考えていこうという観点では、地域ケアという取り組みを行っており、地域のお年寄りや子どもを地域の中で面倒みていこうというような事業も地域ごとに行っております。

また、ファミリーサポートセンター事業に関しては、人口増加地域では保育園を毎年一園ずつ作っていても間に合わないものですから、地域の子育てが終わったお母さん方が面倒を見てくれるようなシステムを構築しております。40 人から始まったこの取り組みは、今では 2000 人にも膨れ上がっています。その他の取り組みとして、各地域における子育て支援センター、今年できた中国分のスポーツ広場、市民プールなどがあります。

こちらは平成 14 年に完成した市の情報プラザの建物です。おかげさまで去年・一昨年

と、日本経済新聞と日経産業消費研究所により、行政内部の電子化・住民サービスの電子化・セキュリティー対策の3部門で2年連続全国1位を受賞しております。

このような流れの中で、今年から、ボランティア支援のため市民税の1%を使っていこうという取り組みが始まりました。これはNHKのクローズアップ現代でも取り上げていただきました。これからの市川市の行政を考えた場合、どうしても市民活動を活性化していこう、市民活動を育てていこう、という視点が必要になってきます。このような視点から税の1%を市民に選んでもらおうというシステムを条例により決めました。これは大変大きな成果が出ておりまして、来年は、いろいろな反省点を踏まえてさらに充実した内容にしていこうと考えております。

市川市は去年、WHO憲章の精神を尊重した「健康都市いちかわ」宣言をいたしました。去年は市川市の市制施行70周年を迎えた年であります。先ほども申し上げましたが、医療・保健だけではなく、社会・文化を通じての健康都市、まちづくり全体を健康というキーワードで行っていこうということでもあります。そして、事業者・地域・市川市という連携の中で、西太平洋地域の健康都市連合と連携していこうということでもあります。

さらに健康都市ウィークでは、健康都市宣言記念植樹や、記念ウォーキング大会も行いました。また、今年度からは健康都市推進講座を大学と連携して行っております。

そういう中で、今年度から始めたヘルシースクールの取り組みがあります。これは、子どもたちが健康について自ら考え行動し、ライフスタイルを確立しようという取り組みで、学校と家庭と地域が一体となって取り組むシステムを作ろうと、「ヘルシースクール推進協議会」という組織を作りました。メンバーは、校長先生を筆頭にいろいろな方が入っております。今年の事業では、小学校の5年生と中学校1年生の希望者全員の血液検査をおこない、その結果から健康指導をしていこうという取り組みを行っています。そして重点目標としては、体力に関する事、生活リズムに関する事、食育に関する事、これらの事に関して、それぞれにしっかり目標を作っていこうということでもあります。

市川市は昨年フィリピンのマリキナ市とともに「WHO健康都市プロジェクト賞」を受賞しました。これにより、WHOの費用で、マリキナ市との交流事業がスタートしております。また、韓国からも多くの方々から視察に来ていただいております。

昨年マレーシアのクチン市で行われました健康都市連合の会議で、市川市は健康都市連合の設立メンバーとして認められました。そして、市川市の健康都市に関する事例発表もさせていただきました。またこちらにあるように、ポスターセッションでは、ポスターにより市川市の取り組みを発表させていただきました。これらのことにより、いろいろな市から問い合わせをいただきました。このことがいろいろな友好関係をつなぐ大きな橋渡しとなってきました。ここにあるように、韓国の健康都市の取り組みを行っている5市の方々が市川市を訪問しております。

また、ヘルスサポーターの会というのが出来上がっております。また、食生活改善推進員とヘルスサポーターとの共同で行っている事業があります。

これはプロジェクト賞を受賞したときの写真で、フィリピンのマリキナ市長とWHOの尾身事務局長と共に写したものです。マリキナ市とは互いに職員の交流を通じ勉強していこうということで、今年の5月には医師を含む医療関係者の方4名が視察に訪れました。この視察では、学校給食を視察したり、食生活改善推進員活動を視察したり、市民マナー

条例推進事業と一緒に参加して、その状況を見ていただいたり、あるいは、いきいき健康教室に参加していただきました。

このような形で、市川市から情報発信をして、アジアが都市間の交流を通して一つになっていく、それと同時に、国内は国内でお互いに学びあって、また良いものを取り上げて、すばらしい健康都市へと進んでまいりたいと考えております。

時間の関係で早口となってしまいましたが、これからのまちづくりに健康というキーワードを使っていきたいと考えております。